

令和 4 年 12 月の解説（府県天気予報）

【12 月の天候状況】

上旬は、低気圧が短い周期で通過し、通過後は北日本を中心に冬型の気圧配置が強まり寒気が流れ込みました。このため、北日本では気温が低く、北日本日本海側では大雪となった所がありました。また、北・東日本日本海側では降水量が多く、北・東・西日本太平洋側では少なくなりました。西日本日本海側では、高気圧に覆われやすかったため、降水量がかなり少なくなりました。一方、沖縄・奄美は前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多く、降水量がかなり多くなりました。

中旬は、期間のはじめは高気圧に覆われて全国的に晴れた日もありましたが、13 日に低気圧と前線が日本海を通過した後は、冬型の気圧配置となる日が多くなりました。このため、北日本と東・西日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多く、西日本太平洋側を中心に晴れの日が多くなりました。また、旬の中頃からは強い寒気が流れ込んだため全国的に気温が平年を下回りました。14 日から 16 日にかけてと 18 日から 20 日にかけては冬型の気圧配置が強まり、北・東日本日本海側では山形県、福島県、新潟県を中心に記録的な降雪となった所もありました。また、九州を含め西日本の平野部でも雪が降りました。このため、降雪量は東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側では多くなりました。沖縄・奄美では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、22 日から 23 日にかけて低気圧が日本海と本州南岸を進み、低気圧が北海道付近を通過した後は 26 日まで強い冬型の気圧配置となり、北海道などで暴風雪となりました。また、山形県や石川県を中心に北日本から西日本の広い範囲で大雪となりました。21 日と 27 日以降は冬型の気圧配置が緩みました。また、沖縄・奄美では高気圧の南縁にあたることが多く、寒気の影響を受けやすくなりました。このため、東日本日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、沖縄・奄美では曇りの日が多くなりました。降水量は東日本日本海側でかなり多くなりました。23 日の降雪の深さ日合計は高知で 18cm と、統計開始以降、通年で最も大きくなり、徳島で 11cm と、統計開始以降、12 月として最も大きくなりました。日照時間は東日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なくなりました。強い寒気が西日本を中心に南下して気温が大きく低下した時期がありましたが、北日本は低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだことや寒気の中心から離れていたことから平均気温はかなり高くなりました。

【12 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 1 ポイント高い 85%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 83%でした。地方別の適中率では、明日予報は、九州北部と沖縄地方以外の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、関東甲信地方以外の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.2℃で、北陸地方以外の全ての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の天気予報の利用にあたって】

2月は、低気圧が発達しながら日本海から北日本に進み、低気圧通過の前後で天気が急変することがあります。また、低気圧通過前は強い南よりの風が吹いて気温が急激に上がり、低気圧通過後は強い北よりの風が吹いて気温が急速に下がるなど、気温が大きく変化することがあります。低気圧が日本付近を発達しながら通過する場合、暴風や猛ふぶき、大雪、なだれなどによる災害が発生しやすくなります。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、早期注意情報、気象情報に留意して下さい。